

陸上競技者として生きる道もありましたが、箱根駅伝を走ってから、両親に感謝の気持ちが生まれまして。そのタイミングで父がこれまでとは違うやり方でタオルづくりをしようと考えた。それと「笑顔の地球をつくってこよう」ということから、「スマイリーアース」と名づけられた会社の精神に惹かれて帰ってきたと思うんです。

棚橋 社名＝経営理念なんですね。私は理念とは理想と信念だと教えられました。自分の仕事の理想とするところ、それに向かって信念を持って進まなければならない。それはSDGsという言葉がなくても自分で突きつめないといけないし、そうすると、井上さんの言うようにSDGsのどれかのゴールに当てはまる。

井上 今では大学はもちろん、小学校の授業でもSDGsについて学んでいます。あくまで個人的な意見ですが、今後はSDGsについて「聞いたことがない」というのは、企業としてすまされないかなと感じています。

奥 誇りやプライドを持つきっかけとして、SDGsはうまく使えるんじゃないかなと思います。その際に経営理念から見直すことが必要な会社もあるかもしれません。これから次世代に継承したいのであれば、「見直さなきゃダメだね」という気持ちも大切です。

井上 おっしゃるとおりでね、もし経営理念がないのであれば、SDGsを利用して考えていけばいい。

棚橋 子どもたちに「お父さんの会社、SDGsの何番と何番やってる」と答えられることはこれからの時代必要で仕事を理解してもらうためには大切なかなと思う。社員にも「うちの会社、何番やっていると思う」という問いかけによって、違う視点で仕事をしている人の方向性も正すことができる。奥さんがおっしゃるように、SDGsに取り組むことが、社員のモチベーションアップにつながればいい。

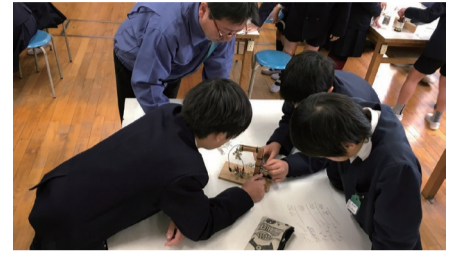
井上 私の場合、これは人生のテーマなんですけど「既成概念を変えたい」というのがあって。SDGsってなんか難しいイメージあるじゃないですか。それを打ち砕きたいですね。「うちのようない工場でもできるよ」というものにね。たとえば私は、体重110kgありますがマラソンをやっている。これも「あいつが走れるなら自分も走れるだろう」と思って欲しくて、チームをつくったんですね。工場見学も同じように「社員10名の小さな工場でもできるんなら、うちもできる」とはじめて欲しいんです。それと同じで、ハードルを下げてSDGsに取り組んで欲しいですね。

奥 今後取り組みたいのが、製造過程で生まれる処理水という副産物を、農業をはじめ水を通じてコラボレーションできる業種の方と一緒に価値創造を目指していきたいですね。山に生息する木を製造のエネルギーにしてきた経緯もあり、タオル製造だけに視点を固着せず、見渡して手を取り合える業種の人たちと上手に手を取り合いたい。それで地域がゆるやかにつながる、そんなエコシステムを目指したいと思っています。



奥社長の父で現在は常務兼工場長の奥竜一氏が、水だけで精練する方法「自浄綿法」を試行錯誤の末に開発。タオルからごみを取り除く工程でも植物性の自家製せっけんを使い、通常はタオル1kgあたり400g使われる薬品を1g以下にまで抑えた。処理水に含まれるせっけんカスは微生物の餌になるため自然浄化され、「メダカも生きられる環境」を実現した
 ・株式会社スマイリーアース

棚橋 うちの本社の新社屋を11月に竣工して、ロボット・IoTセンターということでオープンしているいろんな人に来てもらえるようにしています。今はコロナで難しいですが、これが落ち着いたら海外からも日本の最先端の技術を気軽に見ていただいて学ぶところは学んで欲しいし、逆に課題を教えてもらったりできたら。私の原点は「共育」なので、教え合って一緒に学んでいきたいし、生きていくためにはつながりが大事なので、つながっていきながらともに良くなっていききたいと思います。



産業用ロボット開発にも着手する棚橋電機では毎年、ロボット展示会を開催。教育プログラムにも力を入れており、理科支援員等配置事業の特別講師として理科の授業の教壇に立ち、乾電池を使った電磁石をクレーンに見立てた装置で電気を身近に感じてもらう授業をおこなったり、社会貢献として地元の小・中学校などでネイチャーゲームを通じた自然体験活動を提供
 ・棚橋電機株式会社

モビトーク | 編集後記

コロナ禍で緊急事態宣言が発出される中、今回も密を避けるためリモートで実施しました。本号では、巻頭特集MOBITALKにおいて、3社の代表に、SDGsへの取り組みについて熱く語っていただきました。企業にはそれぞれの経営理念がありますが、それを実行に移すことで、自然に地域貢献や国際貢献などのSDGsの取組みが実行できるのだと強く感じました。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

TODAY'S MEMBERS



日本・世界・宇宙をフィールドに
新しい時代の社会のニーズに応える。

2021年で創業64年目を迎える棚橋電機。コントロールボックスの設計・製作など電気関係の仕事を基盤に、今日の世界・省エネルギー社会に求められる自動制御、エレクトロニクス、通信(光ファイバ、T/P)などの先端技術の需要に応えている。人工衛星「まいど1号」打ち上げに携わり、培った宇宙事業の継続はもちろん新規事業としてロボットソフトウェアの開発や通信事業にも着手。2020年11月には本社の新社屋を竣工、「ロボット・IoTセンター」としてロボットからドローン、太陽光発電なども展示している。

棚橋電機株式会社

大阪市城東区蒲生2-7-44
TEL 06-6939-1621
http://www.tanahashidenki.co.jp/



地域を照らす光となれ。
精密板金加工のプロフェッショナル。

1937年に神社仏閣の灯籠やバス停の標識を制作する職人集団として創業した光製作所。以来、ステンレス・鉄などの精密板金加工の技術を磨き発展してきた。現在は道路照明器具や医療業界向けの板金筐体や部品を多く手がけている。金属加工の世界は分業化されており、板金と溶接は別々の会社で行うことが多いが、同社では設計から板金加工・溶接、アッセンブリーおよび検査・梱包までの一貫生産で、小ロット多品種短納期を売りにしている。大阪ものづくり優良企業賞(平成28年度)。

株式会社光製作所

大阪市東成区大今里南4-14-11
TEL 06-6974-8848
https://www.hikari-ltd.com/



循環型環境ストレスフリーを実現した
タオル生産プロセスの構築。

創業から70年、泉佐野でタオル製造に取り組む。これまでの大量生産型のタオル製造とは違い、化学薬剤に頼らない特許技術「自浄綿法」を独自開発。エネルギー調達も里山の間伐材をバイオマスエネルギーとして利用するなど環境に配慮して、綿の管理から最終製品化までおこなえる一貫生産工場を持つ。また材料の綿もウガンダでオーガニック栽培された綿花を使用し、無垢な綿の良さをそのまま活かしたタオル「真面綿」をつくり続けている。

株式会社スマイリーアース

泉佐野市上之郷2384
TEL 072-450-2018
http://www.smileyearth.co.jp/
http://www.majimenstore.com/

